



ギタリスト 作曲家 田川ヒロアキさん

「好きっちゃ好きなの！下関」など数々の作曲を手がける全盲のギタリスト田川ヒロアキさん。5月に就任した「ものせき海響大使」や下関への思いを伺いました。

音楽を通して
下関の良さを
広めていきたい

下関で音楽を続けて上京

田川さんは生まれながらに目が見えなかったため、幼い頃から音への興味を持っていました。

小学3年生の頃、近所の方から古いギターを譲り受けたことをきっかけにギターを始めました。音符が見えないので、遊びの延長で演奏技術を身に着けたそうです。「目の不自由な同級生が、職種が限られる中で鍼灸師などになり、音楽でやっていけるかわからなかったのですが、下関で音楽を続けていました」と

盲学校卒業当時を田川さんは振り返ります。

「ある日、世界的ロックバンド『LOUDNESS』の二井原実さんが、私のホームページに掲載していた曲を聴いて、『一緒にアルバムを作りませんか』とのメールを下さいました。目が見えないことを知らずに連絡を下さったのがうれしかったですね」と田川さん。このメールをきっかけに田川さんは上京し、今は東京を拠点にギタリスト・作曲家として活動をしています。



▲任命式では、市長が高校生の時にギターを奏でる田川さんに衝撃を受けたエピソードも。

田川さんに曲づくりについて伺いました。「山口きらら博で作曲した山口県のみさこい総踊り曲『男なら』が好評で、下関のよさこいチーム『馬関奇兵隊』の曲をつくるようになりました。ビート感をイメージして、奇兵隊にまつわる言葉やメロディーを入れたり、高杉晋作にまつわる言葉や平家踊り、漁港節などのメロディーを入れていきます。どうすればよさこいとこれらのメロディーがうまく調和するか研究しました。下関の曲を





まちかどボイス

今月のテーマ
夏にしたいこと



▶ギターのネックを上から持つ、独自のプレイスタイル。ジャンルを横断した多様なギターサウンドを奏でます。



【写真】 SHIGEYUKI USHIZAWA



【写真】 SHIGEYUKI USHIZAWA

◀萩市で行われた聖火リレーセレブレーション。馬関奇兵隊、菊川よさこい連合と一緒に田川さんが作曲した「男なら」を演奏して、ステージを盛り上げました。

▶マネージャーで、妻の美瑞穂さんと。「芯がものすごく強いのですが、ものすごく優しいところがたくさんあります」と美瑞穂さん。「美瑞穂は、アドバイザーでもあり、プロデューサーでもあります。一緒にステージを作り上げている感じがします」と田川さん。



【写真】 SHIGEYUKI USHIZAWA

音楽でつながる下関

つくるときは、格段の思いでつくるので、特別な何かを感じがします」

これから一層の活躍が期待されることから田川さんには、5月に「しものせき海響大使」に就任していただきました。大使や下関への思いを伺いました。

「下関は魅力が詰まっている街だと思います。東京に行ってより良さを感じます。海もあって山もあって食べ物もおいしく、人も温かいです。活気があってのどかなところもあります。下関の潮風や空

編集後記

- 田川ヒロアキさんは、表現が豊かで、エネルギーで、下関愛にあふれるすてきな方でした。下関の良さを再発見できました。(ひ)
- カメラマンを撮影するという機会に恵まれました。とても緊張しましたが、勉強させていただきました。(と)
- ボウリングは、できるだけ重い球で、速く投げるのがよいと思っていましたが、コントロールが一番大事だと教えてもらいました。(き)

気感や香りに何か特別なものを感じますね。見えなくても景色や雰囲気を感じられれます。しものせき海響大使として、下関を表現できる曲をつくって、それを各地で演奏し、下関に行ってみたいと思ってもらえる取り組みをしたいです。市民の皆さんとは、曲を届けることや、コンサートを通じてつながりたいと思います。また下関市内の学校でコンサートなどもしてみたいので、ぜひ声をかけていただきたいと思いたいと思います。下関の面白いことや広めて欲しいことを皆さんからも聞きたいです」

これからの田川さんのご活躍が楽しみです。